

極早生系イタリアンライグラスの適応性について

十川幸一・畠山澄雄・田村紘吉
(宮崎県総合農業試験場)

TOGAWA, K., HATAKEYAMA, S., TAMURA, K.
Local Adaptability Test of YAMA-KE I11.
(A Very early Maturing Variety of Italian Ryegrass).

イタリアンライグラスの系統適応性検定試験を実施している中で、昭和48年より3ヵ年間検定を行った山口農試育成の極早生系「山系11号」は、年内から早春にかけて生育が良くしかも他の品種に比べ出穂が極めて早く、3月下旬から4月中旬に出穂を見て刈取るとその後の再生は急に悪くなるが、その時点における収量ではヤマアオバやワセアオバに比べ多収を示す。その結果を報告する。

試験方法

1. 供試系統および品種 (18~20の中から)
山系11号, ヤマアオバ, ワセアオバ
2. 播種期及び刈取期

年度	播種月日	1番刈	2番刈	3番刈
48年度	9月27日	12月19日	3月18日	4月22日
49年度	9月13日	12月12日	3月18日	4月22日
50年度	9月12日	11月20日	2月23日	4月7日

3. 区制 3区制
試験結果および考察

山系11号は晩生系のヤマアオバや早生系のワセアオバに比べ、各刈取時の草丈に大きな差は見られないが、生草収量では1番刈および2番刈時に最多収を示し出穂後の3番刈には減収となる。他の品種では刈取回数が進むにつれて草丈は長くなり収量も多くなっていく。この山系11号は風乾率が高く風乾収量で多収を示すのも節間伸長がどの品種よりも早く始ることを示す。なお本場において実施中の作型によるとうもろこしとの組合せ試験においても早刈程山系11号の多収性が認められている。

以上のことから山系11号は9月中下旬に播種を行うと4月迄に3回程程度の刈取が可能で、収量も他の品種に比べ多収が見られ出穂してからは再生が極めて不良であることから、3月下旬から4月中旬に最終刈を行いその後作としてとうもろこし、又は早期水稻の前作にその他早刈り甘藷や里芋との組合せも可能で、今後南九州の暖地においてはかなりの作付面積の伸びが期待される。

表 1 草 丈 及 び 収 量 (3区平均)

品種系統名	年度	草 丈 (cm)			生 草 収 量 (kg/a)				風 乾 収 量 (kg/a)			
		1番刈	2番刈	3番刈	1番刈	2番刈	3番刈	合計	1番刈	2番刈	3番刈	合計
山系11号	48年	70.0	73.1	74.4	221.7	325.4	290.3	837.4	41.0	52.4	52.4	145.8
	49年	79.3	82.9	74.5	479.2	370.1	336.8	1,186.1	56.1	64.3	54.4	174.8
	50年	56.9	79.1	80.2	178.7	412.5	262.8	854.0	19.4	75.8	37.4	132.6
ヤマアオバ	48年	65.2	70.9	88.0	155.0	338.2	362.5	855.7	32.4	45.2	51.5	129.1
	49年	76.5	84.5	95.9	376.4	423.6	441.7	1,241.7	45.9	60.7	65.3	171.9
	50年	67.3	60.1	95.1	163.9	301.4	410.4	875.7	18.3	50.7	56.5	125.5
ワセアオバ	48年	64.4	80.5	96.6	170.0	384.7	372.9	927.6	35.3	54.5	55.5	145.3
	49年	78.3	94.8	94.5	394.4	463.9	400.0	1,258.3	50.3	67.5	58.7	176.5
	50年	62.9	73.3	104.5	167.4	345.1	409.7	922.2	20.1	64.1	55.8	140.0